



## IRP's Build Back Better 事例(2014年、2015年、日本)

### 火山防災の見直しと工夫

#### ～応急から事前の備えへのシフトチェンジ～

2015年9月29日

#### ☆御嶽山噴火災害の被害☆

御嶽山では、2007年3月後半にごく小規模な噴火が発生しましたが、その後静穏な状態が継続していました。2014年9月10日から11日にかけて、剣ヶ峰山頂付近で高周波の地震が増加したが、その後次第に減少していた。

2014年9月27日11時41分頃から火山性微動が発生し始め、同11時52分頃、御嶽山噴火が発生しました。中部地方整備局設置の滝越カメラにより、南側斜面を火砕流が3キロメートルを超えて流れ下るのを観測しました。同12時36分、噴火警戒レベル1(平常)から噴火警戒レベル3(入山規制)の噴火警報を発表し、火口から4キロメートル以内に立ち入らないように呼びかけました。

登山者が集中する紅葉シーズの土曜日、昼食時間帯に発生した噴火災害により、死者58名、行方不明者5名、重傷29名、軽傷40名(2014年10月23日現在)の大きな人的被害が発生しました。火山災害としては戦後最悪の犠牲者数となりました。

#### ☆火山防災の見直し☆

御嶽山噴火災害の教訓から、火山防災の見直しが行われた結果、(1)改正活動火山対策特別措置法(2015年7月成立、活火山法)により、①常時観測対象の火山周辺を「火山災害警戒地域」に指定、②任意だった火山防災協議会の設置の義務付け、③地元住民だけではなく、集客施設の事業者にも避難計画の作成を課しました。(2)気象庁が2015年8月から、常時観測火山を対象に一定期間静穏だった火山が始めて噴火した際や、普段より規模の大きな噴火があった場合、5分以内に情報発信し、避難を促す「噴火速報」を開始しました。(3)気象庁は2015年5月、火山活動の状況を5段階で示す「噴火警戒レベル」のうち、最も低い「レベル1」の表現として、従来の「平常」を改めて「活火山であることに留意」へと変更しました。

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード		説明	
			火山活動の状況	住民等の行動	火山・入山者への対応	
特別 警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報	居住地域 及び それより 火口側	レベル5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生。あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法等を判断)。	
			レベル4 避難準備	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、災害時要援護者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。	
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報	火口から 居住地域 近くまで  火口周辺	レベル3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生。あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意、入山規制)、状況に応じて災害時要援護者の避難準備者の避難準備等。	登山禁止・入山規制等。危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)。
			レベル2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生。あるいは発生すると予想される。		火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	レベル1 活火山であることに留意	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	通常の生活。	特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。



トランペットスピーカー

## ☆IRP's Build Back Better ポイント☆

活火山が 110 ある日本にとって、風水害対策、地震津波対策だけではなく、2014 年 9 月の御嶽山の噴火災害に伴い、火山防災の分野において教訓を活かした重要な取り組みが始まりました。具体的には、箱根山は、2015 年 4 月 26 日から大涌谷付近を震源とする火山性地震が増加したことから、2015 年 5 月 6 日、6 時に箱根山に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2（火口周辺規制））を発表しました。2015 年 5 月 29 日、爆発的噴火が発生した口永良部島では、前年の噴火を教訓に、全島民の無事を確認し、噴火時、島に滞在していた 137 名は全員避難しました。とりわけ、気象庁が 2015 年 8 月に運用を開始した「噴火速報」では、スピード重視で噴火の事実だけを伝え、携帯端末などでも受け取れるようになりました。2015 年 9 月 14 日の阿蘇山噴火時には、初めて気象庁からその速報が出され、付近にいた観光客による迅速な避難もあり、死者は出ませんでした。

□参照□

防災白書 [http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h27/honbun/3b\\_6s\\_15\\_00.html](http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h27/honbun/3b_6s_15_00.html)

神戸新聞 2015 年 9 月 23 日朝刊

気象庁 <http://www.data.jma.go.jp/>

鹿児島市 同報系デジタル防災行政無線の運用開始

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/shimin/kikikanri/kikikanri/kurashi/bosai/bosai/dentatsu/kaishi.html>